

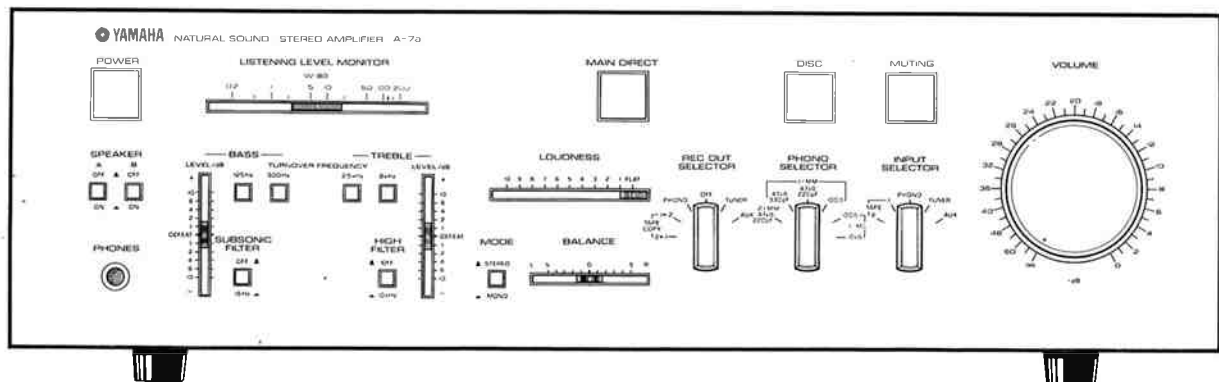


NATURAL SOUND

STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER

# A-7a

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプA-7aをお買い求めいただきまして  
まことにありがとうございました。

A-7a の優れた性能を充分に発揮させるとともに、長年支障なくお使いいただくために、  
この取扱説明書をぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

## ■特 長

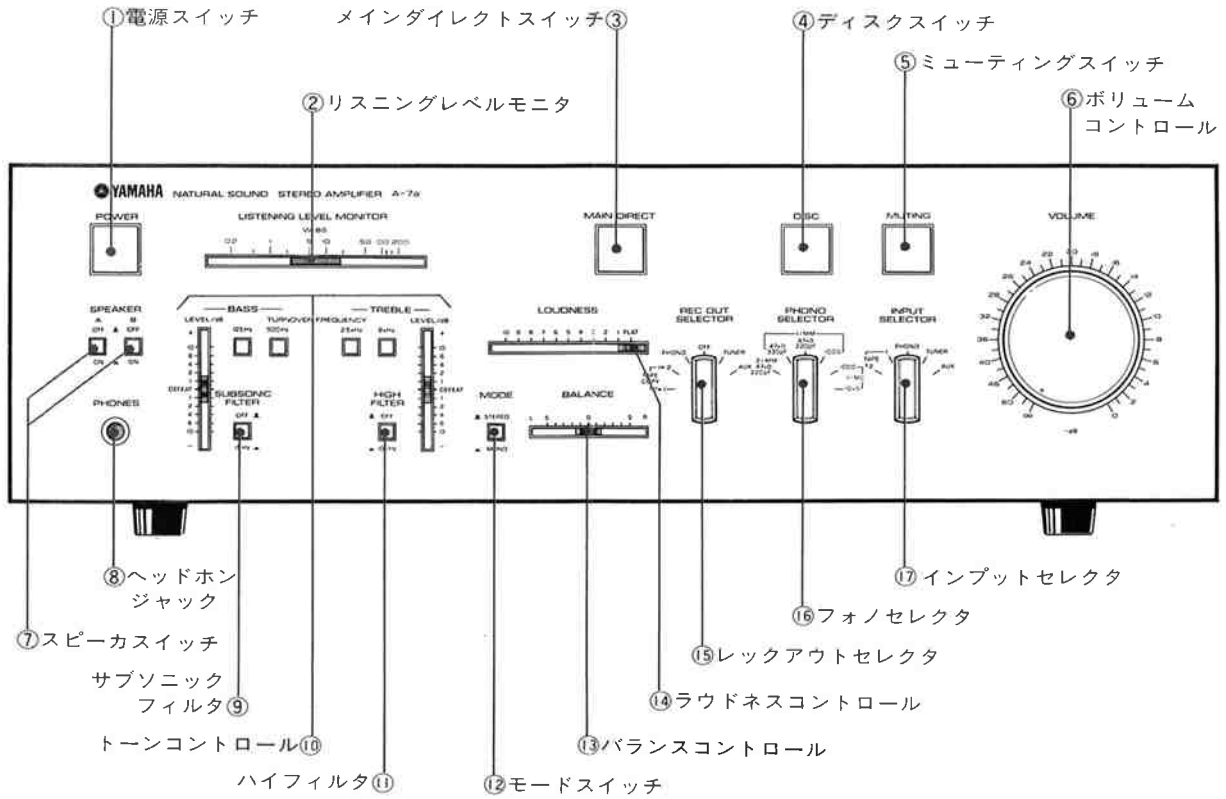
- DCパワーアンプ部のファイナルパワー段に新開発歪打消回路ZDR（ゼロディストーションルール）を採用し、歪ゼロを達成。さらに、DCサーボアンプにより低域特性をコントロールしています。
- 電源部には、アンプの出力に応じて入力電源の通電時間をコントロールして、出力電圧を一定にし、より効率的な電力の活用を可能にしたX電源を採用。小型軽量にもかかわらず120W+120Wの大出力を低歪率（0.003%）で余裕をもってとり出しています。
- 超ローノイズ・デュアルFET使用のイコライザアンプ部は、高SN比、低歪率を実現。さらに、電源とアースのインピーダンスを切り離して、音質や特性に影響を与えないビュアカレントサーボアンプで動作させています。
- セットした出力値でインジケータが点灯し、リスニングレベルの確認や、スピーカの保護に役立つリスニングレベルモニタを装備しています。
- 入カインピーダンスに対するカートリッジロードが選べるPHONOセレクタを装備。カートリッジの特性をフルに発揮させます。また、ゲイン切り換え式イコライザアンプにより、MCカートリッジも直接使用できます。
- 音量の基準を自分で決められるコンティニューアス・ラウドネスコントロールを採用。多種多様なラウドネス効果が得られ、音量と音場による自然な聴感補正が可能です。また、ターンオーバー周波数切り換え可能なトーンコントロール回路は、高性能オペアンプを使用し性能を大幅に向上させています。
- 再生中のプログラムに関係なく別のプログラムを録音したり、テープのダビングなどダブルアクションが可能なREC OUTセレクタや、一時的に音量をさげる場合便利なMUTINGスイッチ、さらに、ワンタッチでシンプルな信号経路にできるMAIN DIRECTスイッチ、DISCスイッチなど、機能面でも充実しています。

## ●目 次

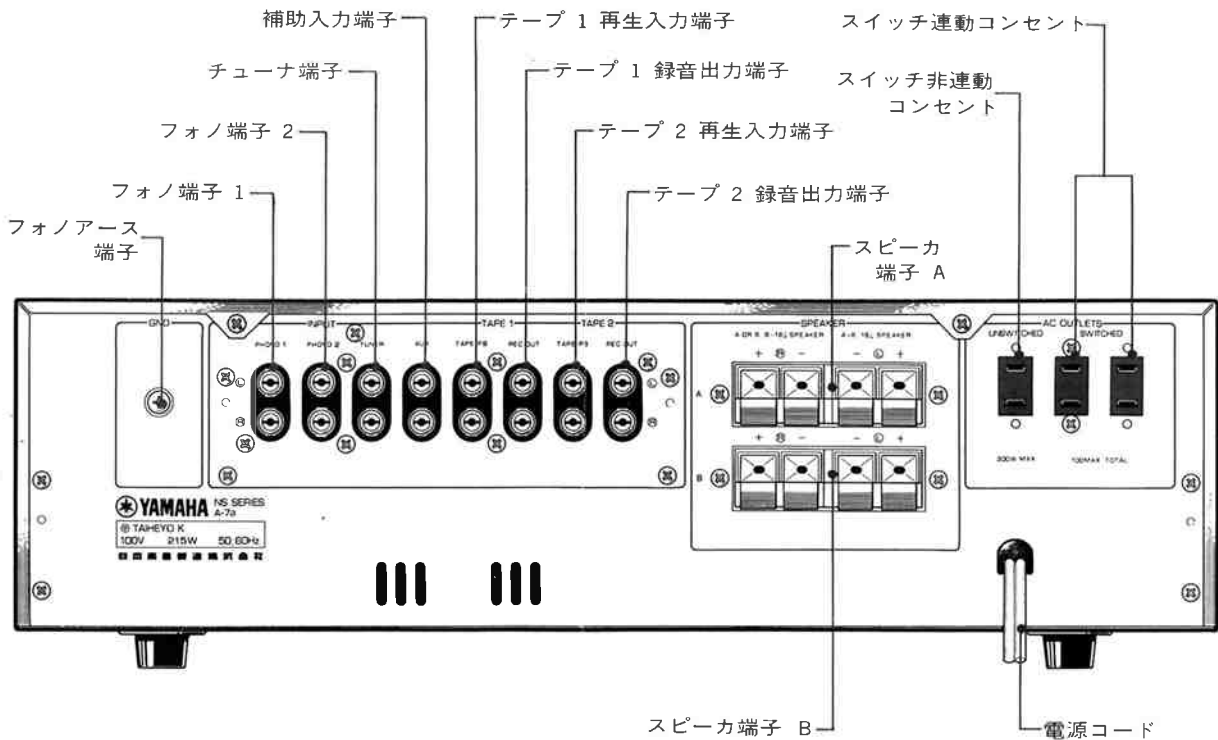
各部の名称	2
接続図	3
ご使用前に次のことにご注意ください	4
接続上のご注意	5
各部の名称と機能	6～9
付属六角レンチについて	9
特性グラフ	10
参考仕様	10
ブロックダイヤグラム	11
故障と思われるときには	12
サービスのご依頼について	13

# 各部の名称

## ■フロントパネルの名称 (6 ページ参照)



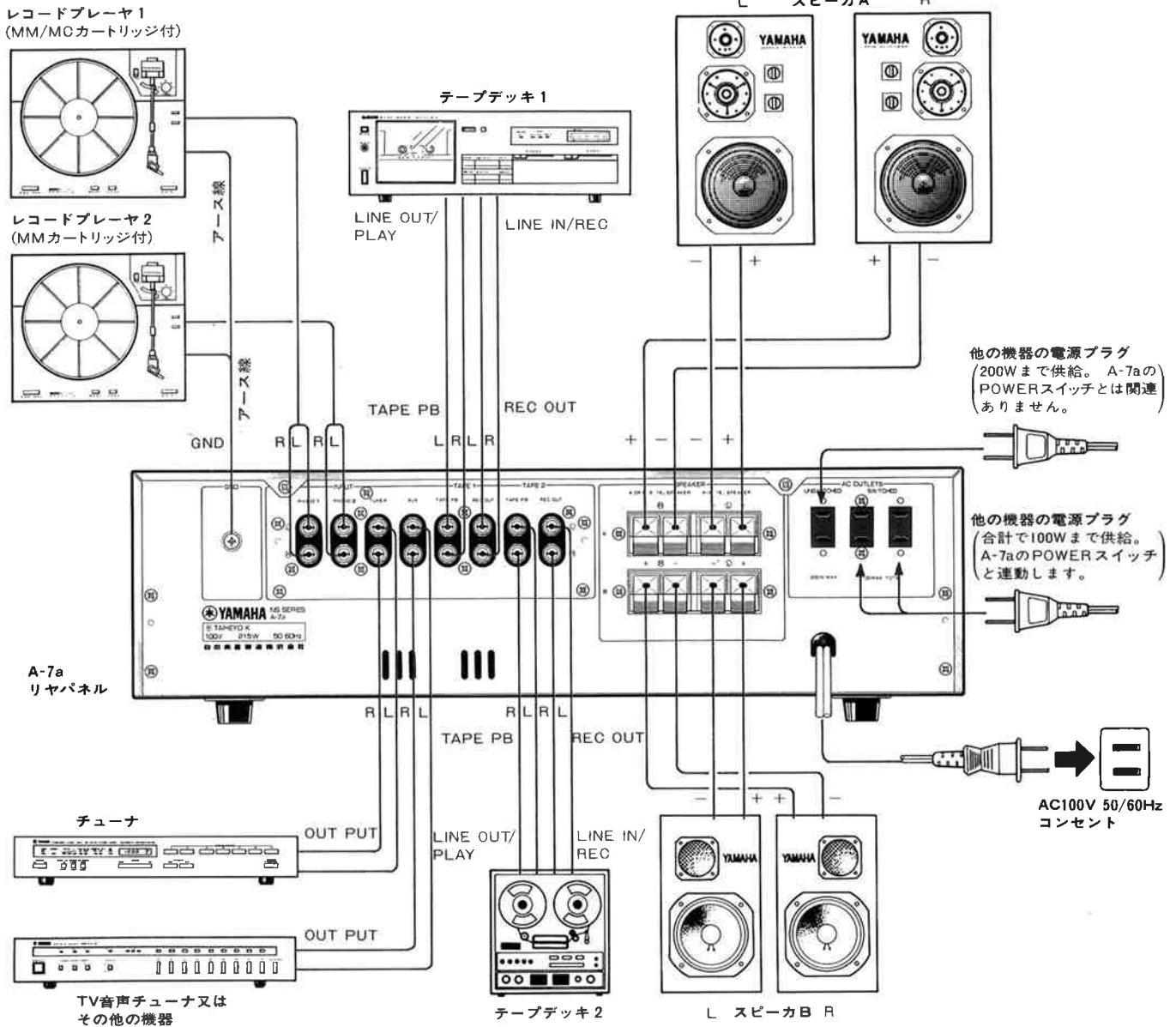
## ■リアパネルの名称



# 接続図

## ■基本接続図

各セットの電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。



## ■接続の前に

1. 接続コード間での悪影響防止のため、各コードはできるだけ交わらないよう離してください。
2. 本機は放熱を防げない場所を選んでセッティングしてください。
3. 接続図を参照し正しく接続してください。

## ■AC OUTLETSへの接続

1. 消費電力100W以下の機器は、本機AC OUTLETSのSWITCHEDに接続し、電源をONにしておきますと、本機のPOWERスイッチと連動させて電源のON、OFFができます。  
 ◆SWITCHEDのコンセントは両方で100Wまでです。接続機器の消費電力を確かめ、必ず100W以下で使用してください。
2. UNSWITCHEDは消費電力200W以下の機器が接続でき、本機のPOWERスイッチには連動していません。

# ご使用の前に次のことにご注意ください。



## 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビを生じることがあります。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり性能をそこなうことがあります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、トランスやモータの近くの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。



## セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナ系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



## 取り扱いには注意

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。



## 電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

●本機は、国内電源AC100V±10V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。



## 落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



## 予備電源コンセント

リヤパネルのACアウトレットの容量は、SWITCHEDは2個で100Wまで、UNSWITCHEDが200Wまでです。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の機器は絶対に接続しないでください。



## 水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、発煙などの原因になり性能をそこなうこととなりますのでご注意ください。



## ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れると、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードをはずしてから動かしてください。



## 入出力コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機の電源スイッチを切ってから行ってください。



## セット上面の通風孔をふさがない

放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上にビニールの敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



## もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず12ページの「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



## 保管してください

この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書と共に大切に保管してください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 接続上のご注意(3ページをご参照ください)

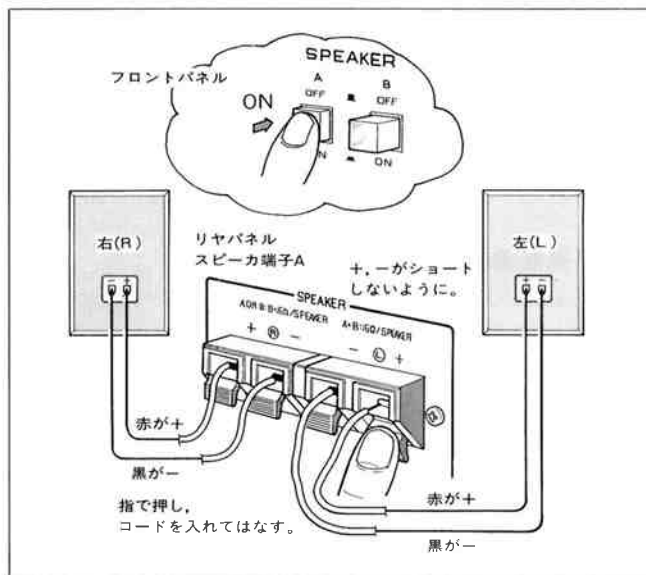
## ■スピーカシステムの接続

2組のスピーカシステムが接続でき、フロントパネルのSPEAKERスイッチでA、B単独にもA+Bで2組同時に使うこともできます。

◆ただし、定格入力(入力感度値)時にフルパワー近くで長時間にわたってご使用になる場合は、次のように使用スピーカシステムのインピーダンスにご注意ください。

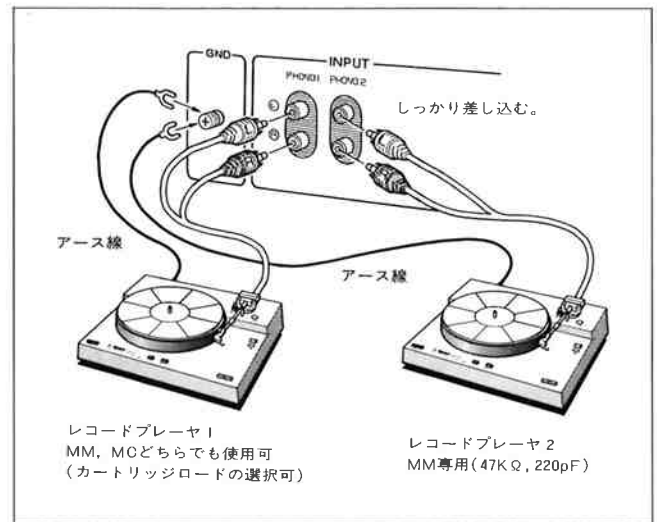
◆A、B単独使用の場合は、スピーカのインピーダンスが4Ω~16Ωのものを、2組同時使用の場合は各インピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。

1. スピーカシステムの左右とSPEAKER端子Aの①、②及び極性+、- (赤が+、黒が-)を確認し接続します。極性をまちがえると、低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいます。
2. 接続は図のようにレバーを押し、スピーカコードの芯線部分を差し込み、レバーを離すとロックします。スピーカコードはできるだけ短かく、左右同じ長さに配線してください。
3. SPEAKER端子Bにも同様にもう一組接続できます。



## ■レコードプレーヤの接続

1. PHONO 1端子には、MM型(IM、MI型)、MC型どちらのカートリッジが付いたプレーヤでも接続でき、その選択はフロントパネルPHONO SELECTORで行ないます。さらに、この端子については、カートリッジロードの選択もできます。
  2. PHONO 2端子はMM型(IM、MI型)カートリッジ専用で、カートリッジロードも47KΩ 220pFに固定されています。
- ◆プレーヤ出力コードのL、Rを確認し、PHONO 1あるいは2端子に接続します。アース線はGND端子に接続します。



## ■チューナの接続

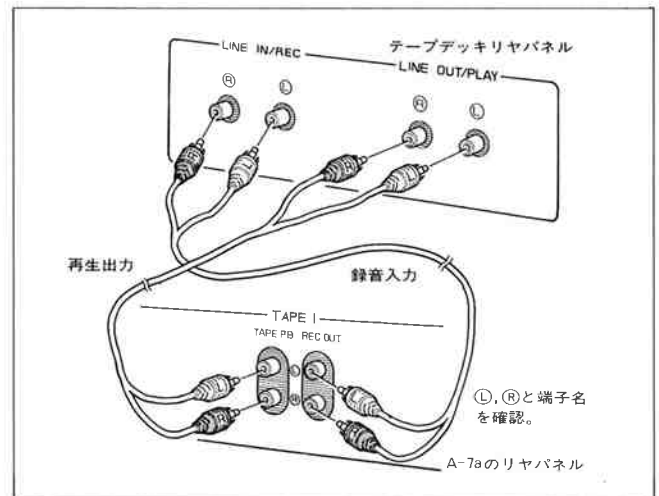
チューナのOUTPUT端子と本機のTUNER端子の①、②を正しく接続します。

## ■テープデッキの接続

1. テープデッキと本機TAPE 1端子の①、②を確認し、次の端子間を接続してください。

本機	テープデッキ
TAPE PB (再生入力)	↔ LINE OUT (再生出力)
REC OUT (録音出力)	↔ LINE IN (録音入力)

2. 同様にTAPE 2端子にも、もう一台接続できます。



## ■AUX端子への接続

AUX端子は補助入力端子として使用します。2台目のチューナやテレビの音声チューナをはじめ、8トラックテープデッキなどが接続できます。

# 各部の名称と機能(2 ページをご参照ください。)

## ①POWER (電源スイッチ)

プッシュON、プッシュOFFタイプで、ONにしますとスイッチ内にランプが点灯します。

- ◆電源を入れるときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEを最小(∞)にしておいてください。
- ◆電源を入れてから数秒間はミュート回路が働き音は出ません。

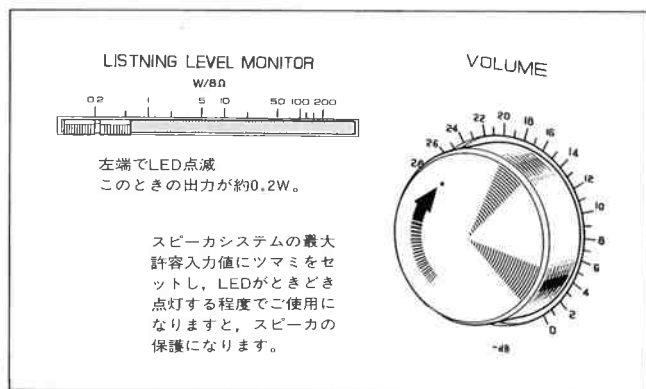
## ②LISTENING LEVEL MONITOR

### (リスニングレベルモニタ)

ツマミ中央にLEDが点滅し、Lch(左)、Rch(右)のリスニングレベル(出力)の大きい方のピークをワット(W/8Ω)数で表示します。

例えば、ツマミ中央を1に合わせVOLUMEで音量をあげていき、LEDが点滅し始めたとき、LchのあるいはRchの出力が約1Wです。逆に、音量をあげておき、ツマミを右に移動させるとそのときの出力がわかります。

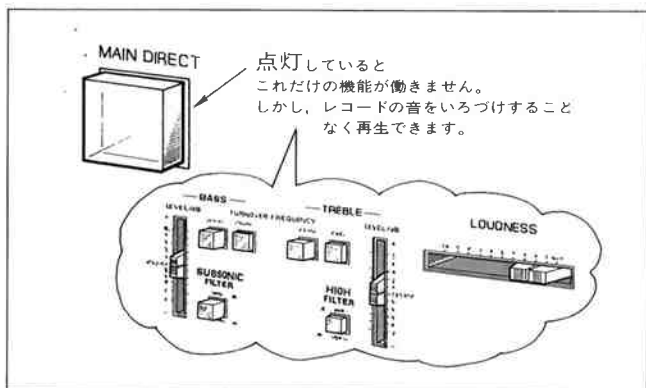
VOLUMEと合わせて、出力レベルの監視や設定にお役立てください。



## ③MAIN DIRECT (メインダイレクトスイッチ)

スイッチONで内部にランプが点灯し、次の機能

- BASS、TREBLE及びターンオーバー周波数スイッチ ⑩
- SUBSONIC、HIGHの各FILTER ⑨、⑪
- LOUDNESSコントロール ⑭

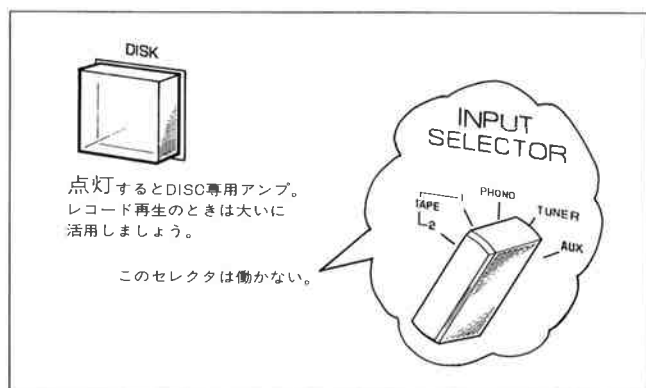


がパスされ、信号経路はイコライザアンプとDCパワーアンプのみの極めてシンプルな回路構成となり、よりフラットでハイクオリティな再生音を得ることができます。

## ④DISC (ディスクスイッチ)

スイッチONで内部にランプが点灯し、INPUT SELECTORに関係なくレコード(DISC)再生に替わります。つまり、スイッチONで本機はディスク専用アンプになり、MAIN DIRECTスイッチとの併用でさらにクオリティの高いレコード再生が可能となります。

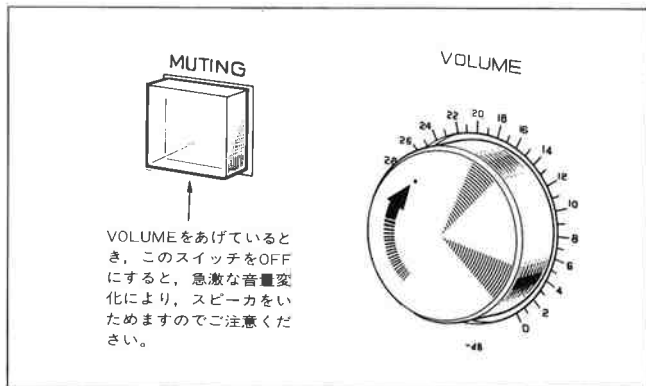
- ◆このスイッチONでもREC OUT SELECTORは働きますので、テープの録音やダビング(複写)は行なえます。



## ⑤MUTING (ミュートスイッチ)

スイッチONで内部のランプが点灯し、VOLUMEを回さずにアンプのゲイン(利得)を20dB(1/10)さげることができます。さらにもう一度押すともとの状態に戻ります。演奏中の電話の応対など、一時的に音量をさげる場合便利です。また、小音量で聴く場合はこのスイッチで音量をさげておくと、VOLUMEで細かい音量調整ができます。

- ◆このスイッチで音量をさげ、VOLUMEで音量をあげているとき、このスイッチをOFFにすると急激な音量変化によりスピーカに悪影響を与えますのでご注意ください。



## ⑥VOLUME (ボリュームコントロール)

全体の音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。

◆POWERスイッチをはじめ、各スイッチを切り換えるときや、レコードに針を降ろすときなどは必ず音量を最小にして行なうようにしてください。

## ⑦SPEAKER (スピーカスイッチ)

リヤパネルSPEAKER端子A、Bに接続したスピーカシステムを選びます。A、B別々にも、A、B両スイッチ共ONにしA+Bで聴くこともできます。

ヘッドホンで聴くときは、A、B両方共OFFにします。

## ⑧PHONES (ヘッドホンジャック)

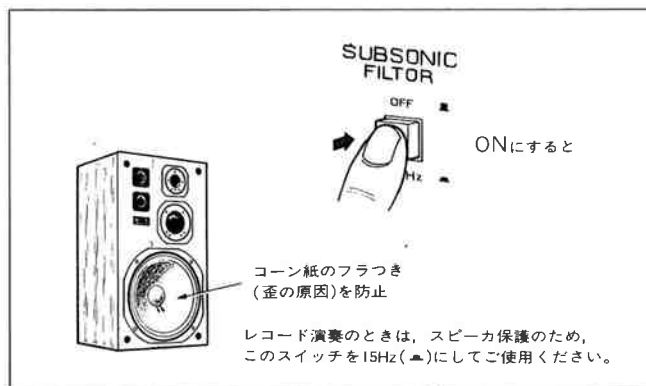
ヘッドホンで聴くときは、SPEAKERスイッチA、Bを両方共OFFにします。

夜間などはヘッドホンのご使用をおすすめします。



## ⑨SUBSONIC FILTER (サブソニックフィルタ)

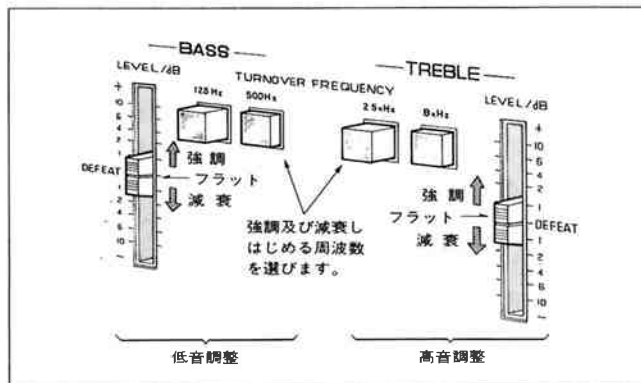
スイッチを押すと、15Hz以下の可聴範囲外の超低域ノイズをカットし、レコードのソリなどによるスピーカのコーン紙のフラツキを防止します。



## ⑩BASS、TREBLE (トーンコントロール)

低音は、BASSスライドツマミとTURNOVER FREQUENCYスイッチ (125Hz、500Hz) の選択により調整します。

スライドツマミが“DEFEAT”位置で特性はフラットになり、上にあげるほど低音が強調され、さげるほど減衰されます。高音の調整も同様で、スライドツマミと2.5kHz、8kHzのターンオーバー周波数の選択により行ないます。



## ⑪HIGH FILTER (ハイフィルタ)

スイッチを押すと、10kHz以上の高域ノイズ (レコードのスクラッチノイズなど) を軽減することができます。

また、弱電界のFM受信の際のシャーンノイズにも効果があります。

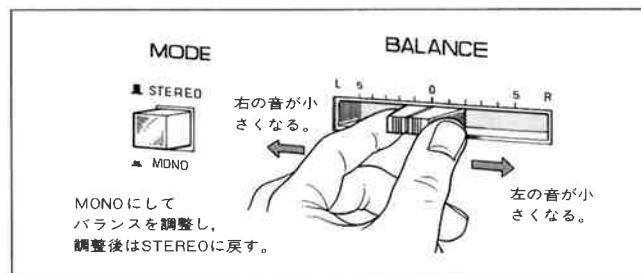
## ⑫MODE (モードスイッチ)

プログラムソースの再生モードを切り換えます。“STEREO”では通常のスtereoで再生され、“MONO”ではモノラルで再生されます。

## ⑬BALANCE (バランスコントロール)

左右のスピーカの音量バランスを調整します。ツマミを右(R)にスライドすると左の音が小さくなり、左(L)にすると右の音が小さくなります。

バランス調整は、MODEスイッチを“MONO”にし、左右のスピーカの音が中央に聞こえるようにします。調整後は、モードを“STEREO”に戻しておきます。



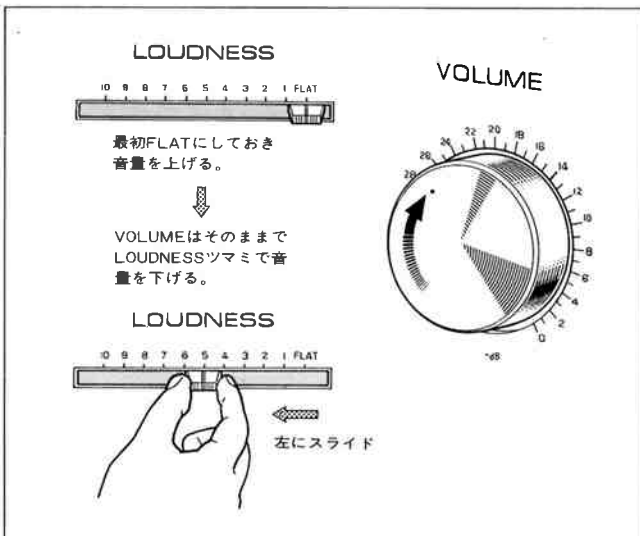


### ⑭LOUDNESS (ラウドネスコントロール)

人間の聴感には、音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスコントロールですが、一般のものはボリュームの回転角度により低域と高域が強調されるため、スピーカの能率や音量、部屋の状態によっては不自然な補正となる場合があります。本機に採用のコンティニユアスラウドネスコントロールは、音量の基準が自分で決められるため、音量に合った最も自然なラウドネス効果が得られます。

#### ●操作方法

1. ラウドネスつまみを“FLAT”にしておき、低域から高域までのバランスが自然になるまで音量をあげます。  
(この状態がラウドネスの基準になります。)
2. つまみを左にスライドさせていくと音量がさがりますので、お聴きになる音量まで下げます。それに従いラウドネス効果は強調されていき、お聴きになる音量に応じたラウドネス補正ができたこととなります。



### ⑮REC OUT SELECTOR (レックアウトセクタ)

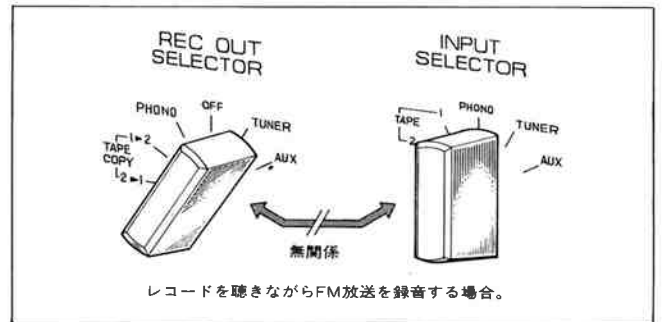
テープデッキに録音するためのプログラムソースを選択します。INPUT SELECTORに関係なくソースを選んで録音することができます。

例えば、レコードを聴きながらこのセクタを“TUNER”にしてFM放送を録音するというダブルアクションや、テープのダビングなどができます。

“OFF”の位置では録音できません。

### ●ダブルアクションの主な操作例

INPUT セクタ	REC OUT セクタ	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカで聴きながらレコードを録音できます。



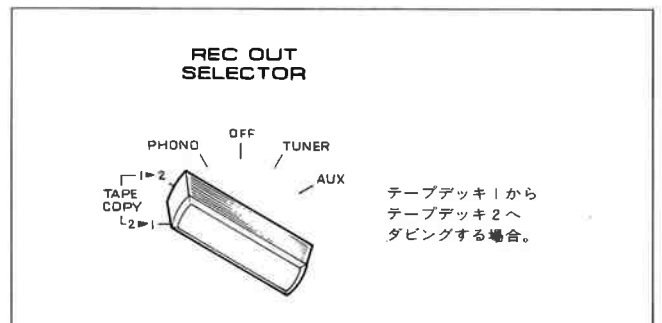
### ●テープのダビングについて

テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。

リヤパネルTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、

1. REC OUT SELECTORを“TAPE COPY 1▶2”にセットします。
2. テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

テープデッキ2から1へも同様にして、REC OUT SELECTORを“TAPE COPY 2▶1”にするとダビングできます。

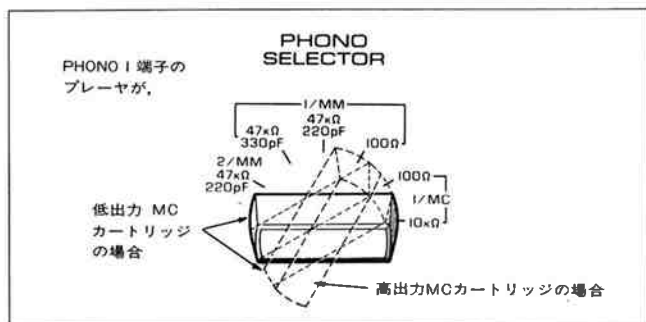


## ⑩ PHONO SELECTOR (フォノセレクト)

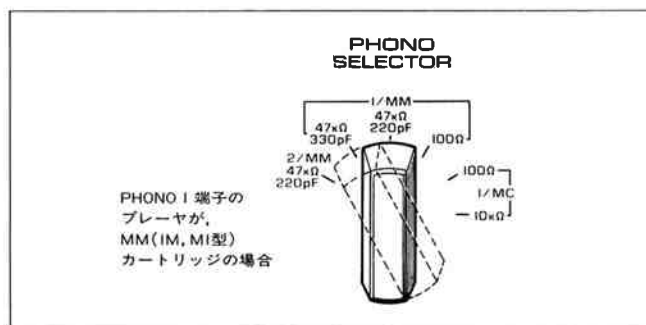
リヤパネルPHONO 1とPHONO 2端子に接続したレコードプレーヤの選択と、MM型及びMC型カートリッジの切り換え、さらに、PHONO 1端子についてカートリッジロードの選択を行ないます。

### ●PHONO 1端子のプレーヤのカートリッジが

1. 低出力MC型の場合は、1/MCの2ポジションのうちカートリッジ指定負荷インピーダンス値に近い方を選んでセレクトをセットし、高出力MC型の場合は、1/MM "100Ω"ポジションにセットします。



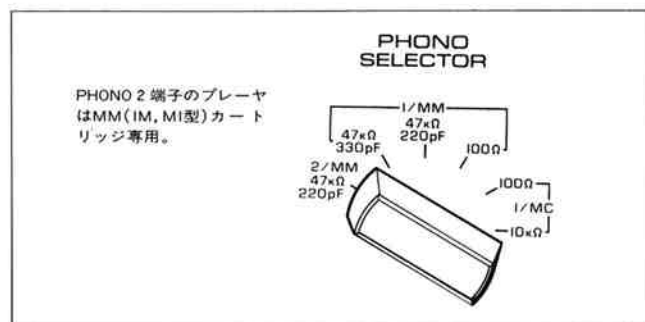
2. MM型 (IM, MI型) の場合は、1/MMの2ポジション (47kΩ、220pF/330pF) のうち、カートリッジ指定負荷容量値に近い方を選んでください。また、負荷容量値を変えると周波数特性が多少変化しますので、好みの音にセットすることもできます。



- ◆PHONO 1端子で、MM型など高出力カートリッジで演奏しているとき、PHONO SELECTORをMCポジションにすると音量が急激に変化し、スピーカに悪影響を与えます。
- ◆カートリッジの出力電圧は機種により異なりますので、カートリッジの説明書を参照してください。

### ●PHONO 2端子のプレーヤは

MM型(IM, MI型)カートリッジ専用となり、カートリッジロードも47kΩ、220pFに固定されています。セレクトを"2/MM"ポジションにしてご使用ください。

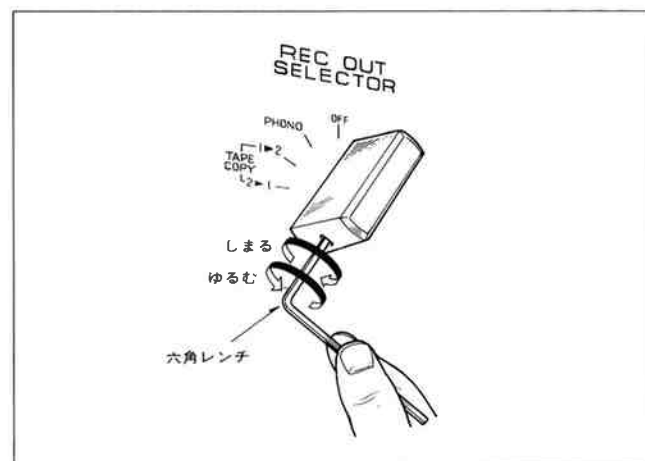


## ⑪ INPUT SELECTOR (インプットセレクト)

リヤパネルのINPUT及びTAPE端子に接続しているプログラムソースを選択します。お聴きになりたいソースに合わせてセットしてください。

### ■付属の六角レンチについて

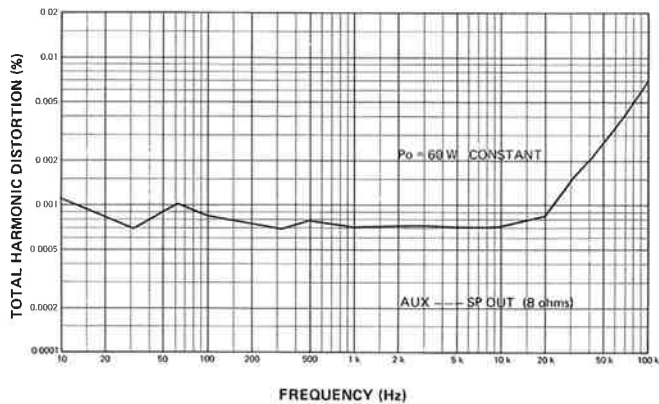
六角レンチは、REC OUT、PHONO及びINPUTの各セレクトつまみの位置がずれたり、ゆるんできたときこれを固定する際に使用します。つまみを正しい位置に合わせ、つまみ下部のセットスクリューをしめて固定してください。



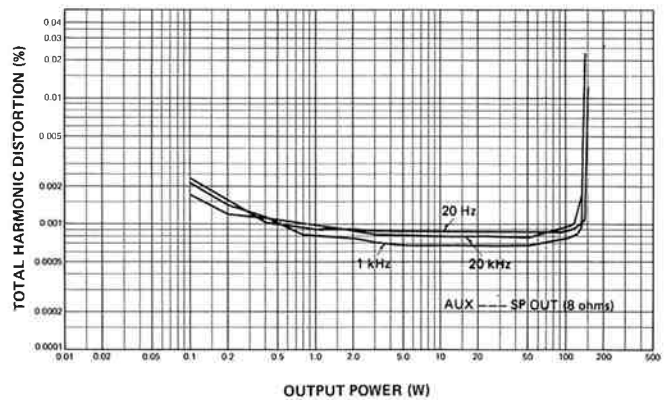
# 特性グラフ／参考仕様

## ■特性グラフ

### ●周波数対全高調波歪率特性



### ●出力電圧対全高調波歪率特性



## ■参考仕様

### 定格出力

20Hz～20kHz, 0.003%, 8Ω 負荷……………120W + 120W  
 パワーバンド幅 (0.02%, 60W/8Ω)……………10Hz～100kHz  
 ダンピングファクタ (1kHz, 8Ω)……………65

### 入力感度／インピーダンス

PHONO MC……………160μV/100Ω, 10kΩ  
 MM……………2.5mV/47kΩ 220pF, 47kΩ 330pF, 100Ω  
 AUX, TAPE, TUNER……………150mV/47kΩ

### 最大許容入力 (0.01%, 1kHz)

PHONO MC……………15mV  
 MM……………250mV

### 出力電圧／出カインピーダンス (1kHz)

REC OUT……………150mV/470Ω

### ヘッドホン出力／

負荷インピーダンス (0.01%)……………0.89V/8Ω  
 8.37V/100Ω

### 周波数特性 (MAIN DIRECT ON)

AUX, TAPE, TUNER……………1Hz～100kHz/  $-2$  dB

### RIAA 偏差 (20Hz～20kHz, RIAA)

PHONO MC……………±0.3dB  
 MM……………±0.2dB

### 全高調波歪率 (20Hz～20kHz)

PHONO MC→REC OUT (7V)……………0.006%  
 MM→REC OUT (10V)……………0.003%

### AUX, TAPE, TUNER→SP OUT

(60W/8Ω, MAIN DIRECT ON)……………0.003%

### 混交調歪率 (60Hz : 7kHz = 4 : 1, MAIN DIRECT ON)

AUX, TAPE, TUNER ; 定格出力/8Ω……………0.002%  
 1W/8Ω……………0.01%

### SN比 (IHF A ネットワーク, 入力ショート)

PHONO MC……………71dB (250μV 基準)  
 MM……………87dB (2.5mV 基準)

AUX, TAPE, TUNER……………106dB

### 入力換算雑音 (IHF A ネットワーク)

PHONO MC……………-142dBV  
 MM……………-138dBV

残留ノイズ (IHF A ネットワーク)……………65μV

### チャンネルセパレーション (1kHz, Vol. -30dB)

PHONO MC (ショート)……………70dB  
 MM (ショート)……………70dB

AUX, TAPE (5.1kΩ)……………70dB

### トーンコントロール可変幅

BASS (ターンオーバー周波数125Hz, 500Hz)  
 ………………±10dB (20Hz, ターンオーバー500Hz)

TREBLE (ターンオーバー周波数2.5kHz, 8kHz)  
 ………………±10dB (20kHz, ターンオーバー2.5kHz)

### リスニングレベルモニタ……………0.2W～200W (8Ω)

(スライドVRにより、各設定ポイント  
 のピークレベルでLED点灯)

### フィルタ特性

SUBSONIC FILTER……………15Hz, -12dB/oct.

HIGH FILTER……………10kHz, -12dB/oct.

### コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量 (聴感補正カーブによる)……………20dB (1kHz)

### オーディオミューティング……………-20dB

### ゲイントラッキングエラー……………2dB

### 定格電源電圧, 周波数……………AC100V, 50/60Hz

### 定格消費電力……………215W

### ACアウトレット

SWITCHED……………total 100W max, 2個

UNSWITCHED……………200W max, 1個

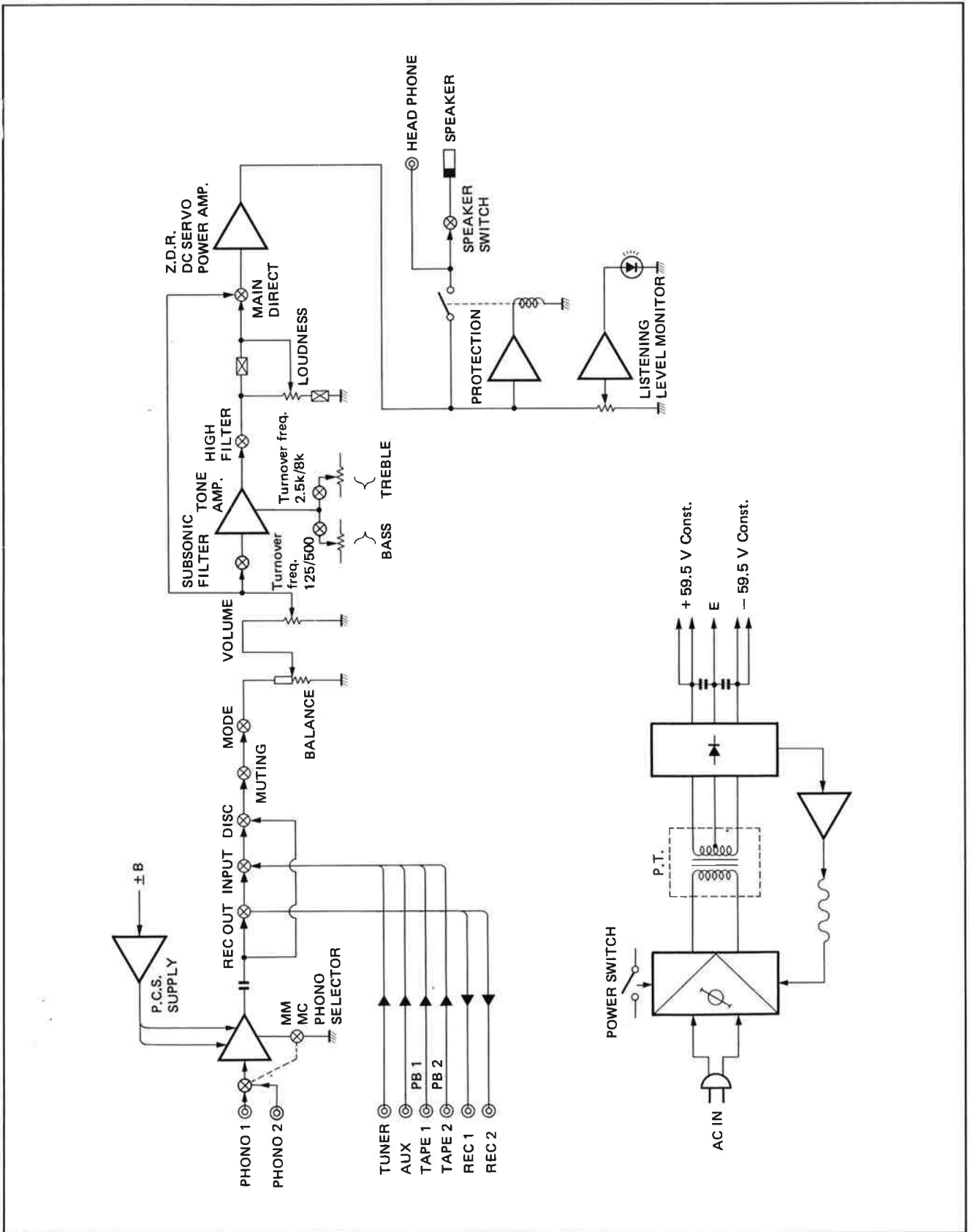
### 外型寸法 (W×H×D)……………435×133×365mm

### 重量……………10.6kg

### 付属品……………六角レンチ (1.5φ), 1本

※参考仕様及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

# ブロックダイアグラム



## 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない場合は、電源プラグを抜き、お買い上げ店又は最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
INPUT SELECTORを切り換えても再生音が全く出ない。	DISCスイッチが点灯している。	DISCスイッチが点灯しているとINPUT SELECTORは働きません。DISCスイッチをOFFにしてください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	SPEAKERスイッチが正しくセットされていない。	正しい位置にセットしてください。
	出力コードの接続が不完全。	出力コードの接続を確認してください。
左右スピーカあるいは左右いずれかのスピーカから音が出ない。	BALANCEコントロールがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEコントロールを正しく調整してください。
	アンプとスピーカの接続が不完全。	接続、または動作を確認してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない。	アンプとスピーカの位相（+、-）が合っていない。	アンプの位相（+、-）を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤのアース線をGND端子に接続していない。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤとスピーカシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている。	レコードプレーヤとスピーカシステムの各々の設置場所を変えてください。特に部屋のコーナーは避けてください。
MCカートリッジの音が小さい。	PHONO SELECTORがMMの位置になっている。	PHONO SELECTORをMCにセットしてください。
	MCカートリッジのプレーヤをPHONO 2端子に接続している。	PHONO 2端子はMMカートリッジ専用です。PHONO 1端子に接続しなおしてください。
トーンコロトロール、FILTERスイッチ、LOUDNESSなどが働かない。	MAIN DIRECTスイッチが点灯している。	MAIN DIRECTスイッチが点灯していると左記の機能は働きません。MAIN DIRECTスイッチをOFFにしてください。
録音できない。	REC OUT SELECTORがOFFになっている。	REC OUT SELECTORを録音したいプログラムソースに合わせて切り換えてください。

# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合わせは、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

## ■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に「故障ではないか」とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

## ■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)  
※品名、製造番号は本機リヤパネルに表示してあります。

## ■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたいと存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口	
東京電音サービスセンター	〒104 東京都中央区銀座7丁目11-3(矢島ビル4F) TEL (03) 572-3341
東京ステレオサービスステーション	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 255-2241
東京電音サービスステーション	〒104 東京都中央区銀座7丁目11-3(矢島ビル4F) TEL (03) 572-3341
横浜電音サービスステーション	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL (045) 212-4852
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーポールビルヤマハ新潟センター2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
大阪ステレオサービスステーション	〒550 大阪市西区江戸堀1-9-1(船後橋センタービル6F) TEL (06) 445-6421
大阪電音サービスステーション	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F) TEL (0878) 33-2233
名古屋電音サービスセンター	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
名古屋電音サービスステーション	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
北陸電音サービスステーション	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL (0762) 43-5431
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-14-1 TEL (0534) 56-9211
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
九州電音サービスステーション	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区紙園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
北海道電音サービスステーション	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市原町南目字薬師堂北21 TEL (0222) 95-6111
仙台電音サービスステーション	〒983 仙台市原町南目字薬師堂北21 TEL (0222) 95-6111
お預り品修理拠点	
東京電音サービスデポ	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10 TEL(03)904-4986 (03)904-4901
大阪電音サービスデポ	〒564 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービスデポ	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-2432
九州電音サービスデポ	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2137
北海道電音サービスデポ	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスデポ	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商協同配送センター3F) TEL (0222) 96-0249
本社	
営業技術部電音サービス課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

## ■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-8/パールビル内TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪南区末吉橋通4-8/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6111
仙台支店	〒983 仙台市原町南目字薬師堂北2-1 TEL(0222)95-6111
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)221-4122
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL(0534)54-4115
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL(0534)54-4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。